

○ 草の根パートナー型

平成15年度第1回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	ヨルダン
2. 事業名	ヨルダン渓谷北部地域における住民参加型環境保全節水有機農法の普及と普及センターの確立
3. 事業の背景と必要性	事業対象地のサウスシュエナは年間降雨量が100～200mmと少なく、土壌の塩分濃度が高い。ジュラシュは土中に硫黄の層があり、場所によっては井戸水が汚染されている。ブルマは山岳地帯で農業用水を天水に依存しており、天候によって収穫が左右される。どの地域も貧困農民層は農業用水の確保に苦勞しており、生活は困窮している。
4. 事業の目的	ジュラシュ、ブルマ、サウスシュエナの一般農家へ、環境保全型節水無農薬有機農法（パーマカルチャー：PC農法）の普及活動を行う。参加農家や農業省技官の教育を、設立するモデルファームを通して行い、ヨルダンにおける有機農法の専門家を育て、本会撤退後の事業の継続と発展を可能とする。また将来のヨルダン全土での普及活動の布石とする。
5. 対象地域	ジェラシュ県ジェラシュ、ブルマ地区及びバハラ県サウスシュエナ地区
6. 受益者層	ジェラシュ、ブルマ地区8ヶ村（人口4,900人、約700世帯）及びサウスシュエナ地区6ヶ村（人口27,000人、2,850世帯）の貧困農民層。農業省技官20～30人を対象とする
7. 活動及び期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> ● ジェラシュ、ブルマ及びサウスシュエナを含む地域農民の農地からの多品目無農薬・有機農産物及び蜂蜜、家禽類の定量生産の確立。 ● PC農法の普及。同農法を導入した農家の農業用水の年間使用量と一般農家の使用量の比較（通常農法の1/2～1/3）。 ● 参加農家数の増加。事業実施期間終了時には50家族のPC農法実施農家の輩出を目指す。 ● 地域緑化の促進。参加農家庭内の敷地、農地、ワジ（水無し川）、道路脇の余地、その他公共用地での緑化を推進する。 ● 無農薬有機農産物の販売路（マーケット）のリサーチとその確立。農業省と協力してアンマンや近隣の観光地で、産地直送システムを作る。ヨルダン農業省による有機食品品質基準化、ラベル化への協力を行う。 ● 環境保全型節水有機農法（PC農法）を普及させることができる人材の輩出。
8. 実施期間	2004年4月～2007年3月（3年間）
9. 事業費	第一年度契約金額：34,288千円（精算金額：29,953千円） 第二年度契約金額：17,659千円
10. 事業の実施体制	当会理事長及びPC農法に詳しい専務理事が総括責任者を担当し、その下でプロジェクトマネージャーが事業全般の管理・進行を行う。総括責任者は必要に応じて現地を訪問し、事業の進捗状況の確認と事業計画の問題点などについて把握し、常に適確な判断が下せるようにする。現地での緊急事態の際には、すみやかに現地協力団体及び、JICAヨルダン事務所、現地日本大使館と連絡を取り合い、派遣人員の心身の安全を第一とし、行動する。
II. 実施団体の概要	
1. 団体名	社団法人 日本国際民間協力会
2. 活動内容	環境保全活動、無農薬・有機節水農法の普及、コミュニティ開発、資機材銀行の運営、教育、保健医療、技術・資材供与、職業訓練、緊急援助等
3. 対象国との関係、協力実績	1994年より現地NGOのJOHUDとマイクロクレジットの一種である「家畜銀行」の運営を実施。また2000年7月よりJICA、JOHUDの協力の下、PC農法の普及活動を行っている。当会の活動がきっかけとなって農業省内に有機農業部門が設立され、当会スタッフが農業技官を対象にして講習会を開いたり、当会の試験農場への視察を受け入れたりして、協力関係を深めている。